

# 児童の成長を支える教職員の連携

## — 学年の実態に応じたPBSの推進を通して —

学籍番号 239105  
 氏名 岩切 未佳  
 主指導教員 佐々木 靖  
 副指導教員 藤田 直子

### 1. 背景

#### 1.1 実習校の現状と課題

実習校の現状として不登校や個別の支援が必要な児童が年々増えている。また家庭環境も様々で、子ども自身も課題や困難を抱えている児童が多くいる。困難を抱えている実習校であるから、経験年数が豊富な教員が多く配置されている。これは教員の「個」の力が備わっているという強みがある反面、「個」の力が大きくなり「線」となり繋がっていくことが難しい。先にも述べたように、実習校は、課題や困難を抱えている家庭や児童が多くいる。このように、多様で複雑化した課題解決には、組織的に取り組む必要があるが、「めざす子どもの姿を共有する」という機会を持たなかつたため、組織として取り組み児童の発達を支援する体制が整っていないなどの課題がある。

#### 1.2 報告者の立場

実習開始当初は、担任ではなく、3年生から6年生の一つの教科と5年生の一教科を担当していた。そのため、多くの学年の状況を知ることができ、比較的自由に色々な学年、学級に足を運ぶことができた。そして、当時の管理職と実習校に必要なこととしてPBSの提案をし、2年生にPBSを実施してもらうこととなった。

実践2年目になり、6年生の担任となつたため、全校実施ではなく、6年生と交流の多い1年生にPBSの協力を依頼し、総合的な学習とPBSを連携させることとした。

### 2. 基本学校実習の取り組み

基本学校実習では、主に3つの取り組みを行つた。

一つ目、管理職へのインタビュー調査で「教職員のベクトルが違うのではないか。」という課題が出てきた。そこで、教職員で「めざす子どもの姿」を共有できるように、「ベクトル会議」というものを報告者が計画・実施した。そこで多くのグループから「学校のきまりを守れる子」という姿が多く出てきた。

そして、次の取り組みとして、「学校のきまりを守れる子」になるための手立てとしてPBSの提案をした。そして、2年生がPBS導入に協力してくれることとなつた。

3つ目の取り組みは、2年生PBS実施の介入である。2年生の担任と相談の上、マトリクスを完成させた。

### 3. 発展課題実習の取り組み

発展課題実も主に3つの取り組みを行った。

一つ目は、6年生と1年生の交流会に向けてPBSを導入した。基本学校実習の時の立場が変わったため、学年を超えたつながりを意識した取り組みを行った。1年生は、学校のきまりがわからない時期には、6年生がお手本となり「望ましい姿」を見せることで1年生の学校の決まりの定着を図り、6年生には、最高学年としての自覚が芽生えた。そこで、きまりの定着のために1年生はシールを集めて、シールが100枚貯まつたら、6年生と「夏祭り」をする等方法を行った。

二つ目は、「PBS自主研修」の実施。一斉に全校実施が難しいことから、自主研修を行いPBSを知ってもらい、クラスワイドPBSを実施する学級を増やすことを目的とした。そのためには、PBSの実施の手順や賞賛の方法をいくつか載せてマニュアルを作成し、実習校の校内で共有できるフォルダーに入れておいた。すると、自主研修後には、3クラスがクラスワイドPBSを行うようになった。

三つ目は、児童の参画である。6年生自らが「望ましい姿」を体現することで、自分が発信し、学校をよくしていこうという取り組みを行った。学校のきまりに照らし合わせながら、「望ましい姿」の動画を作成し、全校に向け発信した。また、その取り組みで、最初に行ったものは、「あいさつ運動」である。これらは、賞賛の方法としてチケットを活用した。そして、これらの取り組み後に教職員にアンケート調査を実施し、多くの教職員が児童の参画に肯定的な意見を持っていました。

### 4. 総合考察と今後の課題

今回の報告では、PBSをクラスで実施した教員のインタビューの結果から、児童への声掛けが変わったという声が何度か聞かれた。また、6年生の児童が参画した取り組み後のアンケート結果から、「あいさつを自分からする児童が増えた」や「トイレのスリッパを綺麗に並べる児童が多くなった」や「望ましい姿」になるために子ども同士での声を掛け合う場面が見られるようになったなど、「望ましい姿」を見つけて、賞賛をするというように教職員の意識も変わっている。このように、「望ましい姿」を共有することで、担任以外も目の前の児童を賞賛しやすくなると考える。

今後は、クラスでPBSを実施する学級を増やすこと。そして、それを全校に広げていくことである。実習校において、取り組み期間中は、全校児童が意欲的に「望ましい姿」をめざし、努力していたが、取り組み期間が終わると、徐々に減少しているとアンケートにも書かれていた。そのため、継続的に取組をし、クラスワイドPBSからスクールワイドPBSの実施をめざし、実習校の学校文化となるよう研究を続けていきたい。